

人と自然が共存から共生できる里山回復を目指した活動

里山林の変化

今年は夏から秋にかけて異常な暑さが続き、11月に入っても夏日が現れました。気温が高く、降雨量が少なく湧水が枯渇する頻度が春、夏を通して増えています。

近年、ナラ枯れでコナラの大木が立ち枯れ、イヌシデやヤマザクラなど、大木は幹が折れずに根ごと倒れる「根返り」が多く見られ、里山林に何らかの変化を感じます。

紅葉のピークが過ぎ、落葉が進んだ林内は日が差し込み、林冠の彼方には青空が広がり気分爽快。下草刈りや倒木処理の作業がよいよ始まります。



イヌシデやヤマザクラが「根返り」倒木



ナラ枯れで落下した枝



様々な場所で「根返り」倒木

冬の楽しみ

カシワバハグマの花がドライフラワー状態で群落しています。この場所は夜間に氷点下まで冷え込むとカシワバハグマの茎に霜柱が現れます。

12月17日早朝、気温が氷点下5℃に下がり、凍てつく寒さと静けさのなかカシワバハグマに大きな霜柱が見られました。



カシワバハグマの霜柱

